

福井県での栽培に最適化した酒米“新山田錦”の育成

研究概要

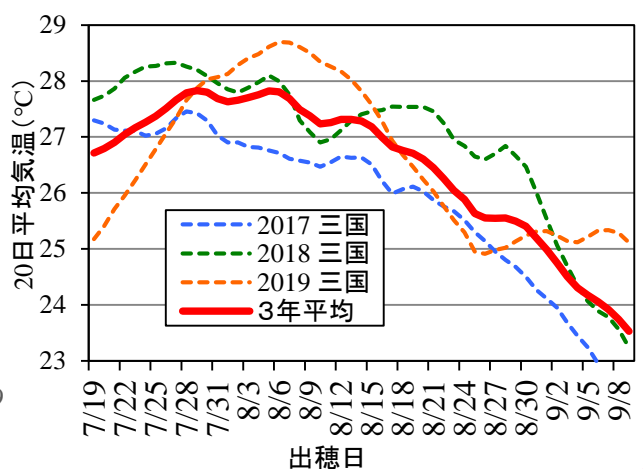
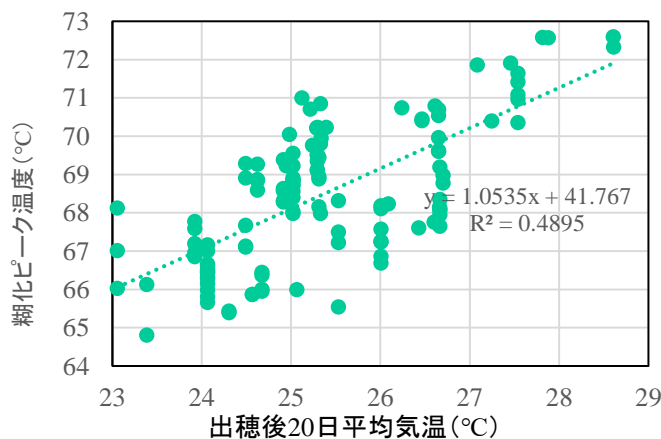
日本酒醸造には、最高級ブランドイネ品種「山田錦」が多く用いられている。しかし、粳が脱落する性質があり、背が高く育てにくく、福井県内で栽培すると秋に低温に遭うため、収量・品質の面で採算が取れない。そこで、イオンビーム照射による突然変異育種法を用いて福井県内での栽培に最適化した「新山田錦」を育成する。

研究成果

令和元年度は、「粳が脱落しない」難脱粒表現型と「早く収穫出来る」早生表現型を併せ持つ個体の選抜を行った。また、これまでに得られた早生変異体を用いて、デンプン品質が良い最適な出穂期の推定を行った。

・難脱粒変異体への再度の変異誘発により、早生個体を6個体選抜する事ができた。山田錦が8月19日に出穂したのに対し、2個体は7月30日、2個体が8月3日、4個体が8月8日、2個体が8月15日に出穂した。

・様々な出穂期を示す早生変異体を用いた栽培調査3年分のデータから、デンプンの糊化ピーク温度が70℃以下になる気温が27℃以下であることを見出し、8月10日以降に出穂すれば概ね良いデンプン品質の米ができると推測し、上記様に8月8日と8月15日に出穂する個体が最適な個体である可能性が高い。



まとめ

8月10日以降に出穂する事が山田錦の栽培にとって重要であると結論した。上記出穂期に該当する、難脱粒・早生・矮性を実現する個体を得られた。